

令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年 3月 4日
札幌市立大谷地小学校

1 本年度の教育目標

「喜びを生み出す学校」
～ よーし ○○やってみよう ～

・学ぶ喜びを実感する ・思いやり 認め合う ・運動の喜び 健康への関心

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
全般	「喜びを生み出す学校」や目指す子どもの姿を共有して、教育活動を展開しましたか	A	教職員は、目指す学校の姿や子どもの姿を共有して、教育活動を展開することができた。今後も、継続していきたい。	A	A
	子どもは合言葉を意識していましたか	B	子どもの行動目標としての合言葉を「よーし、○○やってみよう」としたが、なかなか定着しなかった。来年度は、合言葉を見直し、全校児童が同じ目標をもって活動できるようにしていく。	A	A
	校種間連携が推進されたと思いますか	B	小中一貫が定着し、6年生の中学校施設見学や教員同士の交流を行った。また、幼保小の連携で、新1年生との交流も行っている。さらに連携を深め、内容を公開していきたい。	A	A
	校務分掌見直しは適切でしたか	B	年度末評価を受けて、分掌の見直しを行ったが、まだまだ改善には至っていない。今後も、随時見直しを図っていく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの交流、教職員の交流を具体的に公開できるとよい。 ・校種間連携については情報をもっと発信できるとよい。 ・教育目標「あたたかい学校」に向かって全職員ががんばってほしい。 ・PTAとしても何か手伝いをしたいと考えている。 			
学ぶ喜びを共有する姿	子どもは、教科の学習で「分かった」「できた」「活躍した」「もっとやりたい」など、自信と意欲を高めましたか	A	研修や授業作りを通して日々授業改善に取り組んでいる。今後も、子どもの自信と意欲が高まるような学習指導のあり方を検討していく。	A	A
	子どもは、家庭学習を意欲的に継続できましたか	B	教師の思いと子ども・保護者の思いが異なってきている。今後は、家庭との連携を図り、家庭での学習を充実させたい。	A	A
	子どもは読書に親しんでいましたか	B	様々なよい本に親しめるよう取り組んだが、質の向上までには至っていない。特に、保護者の理解が得られていないので、読書についての情報を積極的に公開していく。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が体調を崩さずに充実した一年を過ごすことを願っている。 ・保護者と学校の考え方の相違が少なくなるように工夫をしてほしい。 ・読書や読み聞かせに対する対応が充実している。 ・昨年度より家庭学習に対する家庭の評価が上向きになっている。 			

思いやりと自己肯定感	子どもは(挨拶を含む)あったか言葉を使っていると思いますか	A	継続して指導を行うことにより、あったか言葉やあいさつが定着してきた。今後も、継続していく。	A	A
	子どもは、自分の思いを生かした活動ができましたか	A	ほとんどの子どもが自分の思いを生かした活動ができていると感じている。今後も継続して指導をしていく。	A	A
	子どもは、行事の取り組みで感動を共有できましたか	A	コロナ後の学校行事のあり方を検討し、子どもが主体的に取り組めるようにしたことで、感動を共有することができた。	A	A
	子どもは、道徳の時間に内容項目について語り合い、自問しましたか	A	教科としての道徳の学習を通して、それぞれの内容項目について考えることができた。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちと接していると、優しい子多くいると感じる。どの子も個性を伸ばしてほしい。 ・次年度も反省をしながら取り組んでほしい。 			
心身の健康・運動に関心をもつ	子どもは、感染予防・けが防止などを意識して行動できましたか	A	子どもは、感染予防やけがの防止などを意識し、日々の学校生活を送ることができている。	A	A
	運動の苦手な子どもも楽しく運動していましたか	A	どの子も運動の楽しさを感じられ、進んで体を動かせるような取組を行った。	A	A
	休み時間等に運動遊びをしたくなる指導をしましたか	A	外遊びを推奨し、教師が子どもと一緒に遊ぶことで意欲を高めた。今後も継続していく。	A	A
	自分の体も友達の家も大切にしようとする態度(心)が育まれましたか	A	養護教諭と連携し「命と体と心」に関する指導を実施し、成果が出ている。	A	A
	食に対する子どもの意識が高まりましたか	A	栄養教諭と連携し食指導を行い、望ましい食習慣を身に付けられるようになってきた。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンドで遊ぶ子供や先生が多くて感心している。 			
信頼される学校	一人一人の子どもに寄り添った指導ができましたか	B	教職員は指導ができたと感じているが、子ども・保護者の割合は低い。今後は、「子どもの声を聴く」指導を大切にし、一人一人の子どもに目を向けていきたい。	A	A
	必要な説明責任を果たしたり、学校の取組を発信したりできましたか	A	各種お便りや学校ホームページ、すぐるでのメール配信等を通して、学校の取組を発信することができた。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人には相談しにくい子もいると考える。 ・ホームページの刷新を期待している。 ・シャボテンログの活用などでより一層子どもに寄り添えるように期待している。 			
いじめ	いじめの未然防止、深刻化を防ぐための指導や対応ができましたか	B	いじめ防止委員会を中心に、組織的な対応ができるよう取り組んできた。しかし、子どもや保護者の理解には至っていない。今後も継続して取り組んでいく。	A	B
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの定義についてはきちんと把握することが重要である。 ・一人一人への心配りをしていじめのない学校づくりをしてほしい。 ・子どもの声を聴く時間を確保してほしい。 ・相談できない子どもが一步踏み出す勇気を養ってほしい。 			
自分	学校運営に自分のアイデアを生かしながら、協働することができましたか	A	保護者や地域の方からの声を生かしながら、学校の教育課程を編成することができた。今後も継続して行っていきたい。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 役員、保護者、学校の距離を縮めていけるように PTA 活動に取り組みたい。 ・無理なく、充実した学校生活を子どもたちが送れるようにしてほしい。 ・地域と連携して、地域を活用してほしい。 			

